

# 河井寛次郎 と 棟方志功

日本民藝館所蔵品を中心に

会期 7月6日[水]-8月28日[日]

開館時間 10:00-18:00(金・土曜日は20時まで) \*入場受付は閉館の30分前まで

休館日 8月1日(月)

観覧料 一般1,200円(960円) 大学生700円(560円)

※小・中・高校生、障害者手帳をお持ちの方とその介護者1名は無料

※( )内は前売り、団体20名以上、および千葉市内にお住まいの65歳以上の方の料金

※前売券は、千葉市美術館ミュージアムショップ(6月26日まで)、ローソンチケット[Lコード:35089]、セブン-イレブン[セブンチケット]、千葉都市モノレール「千葉みなと駅」「千葉駅」「都賀駅」「千城台駅」の窓口(8月28日まで)にて販売

主催:千葉市美術館、NHK千葉放送局、NHKプロモーション

監修協力:日本民藝館

協力:高久国際奨学財団



## 展覧会概要

民芸運動の創始者として世界的に知られる柳宗悦(1889-1961)が創設した日本民藝館には、その考えに賛同し、支えた個人作家の作品が収蔵されています。柳の思想に共鳴した陶芸家・河井寛次郎(1890-1966)と板画家・棟方志功(1903-75)は、よき協力者として柳を実践面で支えた作家たちでした。柳が唱えた「民芸」の考え方は、さまざまな人々や社会に影響を与えましたが、全国各地の職人たちが作り上げた「もの」の美しさから学び、尊んだ河井や棟方のような個人作家の存在は、民芸運動の推進役となって活動を支えました。

河井は1921(大正10)年に中国をはじめとする古陶磁の技法に精通した新進の陶芸家として登場しました。しかし、自らの個展開催中に柳が朝鮮半島で収集した李朝(朝鮮時代1392-1910)の陶磁器の展覧会を見たことによって、技術偏重の姿勢を反省するようになりました。やがて二人は出会い、河井の後輩であった陶芸家・濱田庄司(1894-1978)とともに「民芸」という言葉を創案しました。

1936(昭和11)年、民芸運動の拠点として東京・駒場に日本民藝館が開設されます。民藝館の建築中に棟方は当時としては大作の板画《大和し美し》をきっかけに柳たちと出会いました。その後、制作のジャンルは異なりながらも河井と棟方は生涯を通して、師弟として相互に影響を与え合うことになります。河井と棟方、そして柳の交流は日本民藝館のあゆみそのものでもあったのです。

日本民藝館が所蔵する河井と棟方の作品は、柳という稀有な思想家がみずからの眼によって収集し、展覧会や出版物で紹介した作品が中心です。その中には、棟方が河井に捧げた板画《鐘溪頌<sup>しょうけいしょう</sup>》をはじめ、二人の芸術家を語る上で欠かせない作品が数多くあります。また、棟方の作品は柳の案によって河井、濱田をはじめとする個人作家や職人たちの協力を得て表装が施されたものもあり、他のコレクションには見られない特徴となっています。

2015年は棟方の歿後40年、2016年は日本民藝館の創設80周年であり、河井の歿後50年です。本展は日本民藝館が所蔵する二人の芸術家の貴重な作品を中心とした約240点によって、日本の美術史上稀な芸術の共鳴と、その機会を生み出したひとりの思想家の眼を紹介するものです。

\*棟方志功は、板の生まれた性質を大事に扱い、木の魂をじかに生み出すために、「板画(はんが)」という言葉を用いています。

## キーワード

### 民芸運動

1926年、柳宗悦、濱田庄司、富本憲吉らによって「日本民藝館美術館設立趣意書」をもって提唱された。民芸＝民衆の工芸品の略。日常の暮らしの中で使われているもの、生み出されたものにこそ健全な美が宿っているという思想のもと、用の美を称揚するもの。

### 河井寛次郎

1890年、島根県安来市に生まれる。東京高等工業学校(現・東京工業大学)窯業科に入学、濱田庄司と知り合う。その後、京都市陶磁器試験場に技手として入所、釉薬や技法の化学的研究を行う。1920年、京都市東山区五条坂鐘鋳町にて清水六兵衛から窯を譲り受け、「鐘溪窯」と名付け、以降この地で陶芸家として制作を行う。1937年パリ万国博覧会にてグランプリ受賞、1957年ミラノ・トリエンナーレ国際工芸展でグランプリを受賞するが、いずれもパトロンの存在であった川勝堅一の取り計らいであり、本人としては無位無冠の陶工として制作活動を行った。1966年76歳で死去。

### 棟方志功

1903年、青森県青森市に生まれる。幼い頃より絵を好み、ゴッホの作品を見て画家を志す。しかし1926年に川上澄生の版画に感動、一転して版画家を目指す。1931年初めての版画集「星座の花嫁」を刊行。1936年第11回国画会展に版画「大和しよし」を出品、柳、河井、濱田庄司らと親交を持つようになる。1952年第2回ルガノ国際版画展にて優秀賞、1955年第3回サンパウロ・ビエンナーレ国際美術展にて版画部門最高賞、1956年第28回ヴェネツィア・ビエンナーレ国際美術展にて国際版画大賞を受賞するなど、国内外で評価を得た。1975年72歳で死去。



## みどころ

### 「鐘溪の神」と「熊の仔」―生涯にわたる師弟関係

技法や釉薬、中国の古陶磁の研究を重ねて制作された作品で陶芸界に新風を吹き込んだ河井寛次郎と、正規の美術教育を受けることなく、ゴッホに憧れて上京した棟方志功。一見、道を同じくすることのない2人が、柳宗悦という思想家の仲介によって出会ったのは1936年のことでした。以来、棟方は河井を唯一の師と仰ぎ、生涯を通じて師弟としてお互いに影響を与え合いました。この昭和の美術界における最もセンセーショナルな出会いによって、新たな美術が次々と生まれていきました。河井寛次郎と棟方志功の師弟関係を紹介する展覧会は、1999年に開催された「河井寛次郎と棟方志功展」以来のものとなります。本展は2人の関係だけでなく、2人に影響を与えた柳宗悦や、所蔵していた朝鮮陶磁器なども展示し、多角的なアプローチで河井と棟方の親交を紐解きます。

### 棟方から河井に捧げる、不朽の名作「鐘溪頌」

棟方による版画作品「鐘溪頌」は河井に対する尊敬の念を24画面に表したもので、戦後最初の大作です。河井と棟方の親交を代表する作品として、本展の重要作品となります。また、柳宗悦から絶賛され、河井と棟方が交流をもつきっかけとなった「大和しよし」も展示。約240点の作品を通して、河井と棟方の魂の交流、柳の思想を知ることができます。

### 現代に通じる「民芸」というライフスタイル

「民芸」という概念は、現代にも通じています。柳や河井、濱田はイギリス人陶芸家バーナード・リーチとも親交があり、彼を通じて「民芸」はミッドセンチュリー・モダンへも影響を与えました。最近ではライフスタイルという言葉が使われ、日常を豊かに感じる生活に注目が集まっていますが、「民芸」こそ、暮らしの中の美を発見するというライフスタイルのはじまりではないでしょうか。その思想の一端をご覧ください。

## 同時開催

### 所蔵作品展

「河井・棟方の周辺―所蔵作品の現代美術に見る」

\*「河井寛次郎と棟方志功」展をご観覧の方は無料

北代省三《蝕る日の奇跡》  
1956-57年／再制作1988-90年  
千葉市美術館蔵



## 記者レクチャー

報道関係の皆様を対象に、披露説明会を行います。スライドレクチャーにて作品の見どころを担当学芸員よりご説明し、その後展示室をご覧ください。

7月5日(火)／15:00より(1時間程度)／10階会議室にて(その後、8・7階展示室へご案内いたします)

参加ご希望の方は同封の申込書に必要事項をご記入の上、FAXにてご連絡ください。

## 関連企画

### ■記念講演会(事前申込制)

「歓喜の二人～歓の巻・河井寛次郎～」

7月24日(日)14:00より(13:30開場)

講師:鷺 珠江(河井寛次郎記念館学芸員/河井寛次郎令孫)

定員:150名/聴講無料

\* 申込締切 7月13日(水)[必着]

「歓喜の二人～喜の巻・棟方志功～」

8月20日(土)14:00より(13:30開場)

講師:石井頼子(棟方志功研究室/棟方志功令孫)

定員:150名/聴講無料

\* 申込締切 8月10日(水)[必着]

### ■記念茶話会(事前申込制)

河井寛次郎は五条坂の自宅で日々お茶を楽しみました。その暮らしは故郷である島根県安来の人々の家庭茶に由来します。棟方志功も河井宅で過ごした経験から、自宅でお茶を楽しむようになります。作法のいらぬお茶ですので、お気軽に平服でお越しください。

対象:中学生以上

定員:各回10名 参加費:一席1,000円

### 寛次郎の器で楽しむお茶

日時:7月23日(土)

[1]11:00～12:30 [2]14:00～15:30 [3]16:30～18:00

講師:鷺 珠江

\* 申込締切 7月13日(水)[必着]

### 棟方志功流 お茶の楽しみ

日時:8月21日(日)[1]11:00～12:30 [2]14:00～15:30

講師:石井頼子

\* 申込締切 8月10日(水)[必着]

### ■ファミリー・プログラム(事前申込制)

「こんな顔みっけ!～木の粘土でお面をつくろう～」

親子一緒に、身近なものの中から色々な顔を見つけていきます。見つけた顔は、最後に木の粘土でお面にして持ち帰りましょう。

8月14日(日)13:30～ 11階講堂にて

対象:小学1～6年生の親子 定員:10組20名 参加費:500円/組

\* 申込締切 8月4日(水)[必着]

### 【申込方法】

左記のイベントについては、往復はがきまたはホームページからお申し込みください。往復はがきの場合は、郵便番号・住所・電話番号・氏名・希望のイベント名・参加人数(2名まで)を明記の上、〒260-8733 千葉市中央区中央3-10-8 千葉市美術館 イベント係 までお申し込みください。

\*お申し込みは1つのイベントにつき1通、応募多数の場合は抽選。

\*記念茶話会参加希望の方は、希望日時も明記してください。

\*ファミリー・プログラム参加希望の方は、2人分の氏名・子どもの学年・当日連絡可能な連絡先を明記してください。

### ■ギャラリートーク

担当学芸員による:7月6日(水)14:00より

ボランティアスタッフによる:会期中の毎週水曜日(7月6日を除く)

\*水曜日以外の平日の14:00にも開催することがあります。

\*混雑時は中止する場合があります。

### ■市民美術講座

「河井と棟方、その広大な世界」

7月30日(土)14:00より11階講堂にて

「昭和30年のアヴァンギャルドー実験工房と実験茶会ー」

8月13日(土)14:00より11階講堂にて

講師:葦科英也(当館学芸課長代理)

先着150名 聴講無料

### ■「中学生のためのギャラリークルーズ'16」

7月22日(金)、23日(土)10:00～15:00随時受付(所要時間30分程度)

子どもだけでの来館と鑑賞を美術館ボランティアスタッフがサポートします。1人でもグループでも参加可。夏休みの宿題(展覧会鑑賞)にも対応できます。参加希望の方は8階展示室へお越しください。

### ■特別企画「美術館で緑日気分!!」

「千葉の親子三代夏祭り」にあわせて、花輪茶之介さんによる飴細工の実演ほか、様々なお楽しみブースをご用意します。大人も子どもも緑日気分をお楽しみください。

8月21日(日)13:00～17:00 1階さや堂ホールにて

\* 会場の出入りは自由です。

## 次回展予告

### 【次回展予告】

「見立ての手法—岡崎和郎 Who's Who—/

「小川信治展—あなた以外の世界のすべて—

9月7日(水)-10月30日(日)



岡崎和郎《P.M.ボール》  
2005年 個人蔵



小川信治《オーヴェールの教会2》  
2011年 作家蔵

## 交通案内

### ◎ JR 千葉駅東口より

・徒歩約15分

・バスのりば ⑦ より大学病院行または南矢作行にて「中央3丁目」下車徒歩約3分

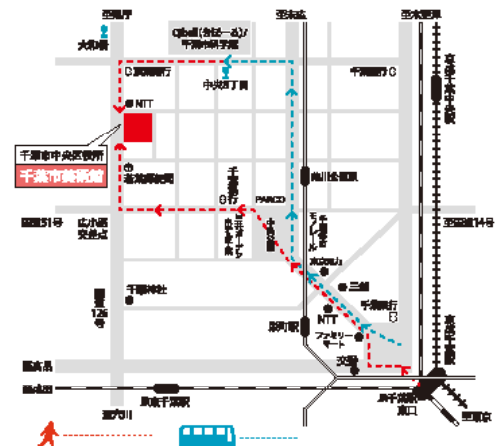
・千葉都市モノレール県庁前方面行「霞川公園駅」下車徒歩約5分

### ◎京成千葉中央駅東口より徒歩約10分

◎東京方面から車では京葉道路・東関東自動車道で宮野木ジャンクションから木更津方面へ、貝塚IC 下車国道51号を千葉市街方面へ約3km、広小路交差点近く

◎千葉市中央区役所と同じ建物です

◎地下に区役所と共有の駐車場がありますが、混雑が予想されますので、なるべく公共の交通機関をご利用ください



展覧会広報用として作品画像をご用意しております。是非、本展をご紹介くださいますようお願いいたします。ご紹介いただける場合は、別紙の申込書に必要事項をご記入の上、FAXにてご連絡ください。画像の使用は1回限りとし、展覧会紹介の目的にのみご使用ください。

## 河井寛次郎と棟方志功 日本民藝館所蔵品を中心に



1.河井寛次郎《白釉葉菱型面取扁壺》  
1942(昭和17)年 河井寛次郎記念館蔵



2.河井寛次郎《辰砂丸紋角瓶》  
1940(昭和15)年 日本民藝館蔵



3.河井寛次郎《三色打葉扁壺》  
1963(昭和38)年 河井寛次郎記念館蔵



4.河井寛次郎《海鼠釉扁壺》  
1937(昭和12)年 日本民藝館蔵



5.棟方志功《大和し美し 下巻》より「倭建命(やまとたけるのみこと)」  
1936(昭和11)年 日本民藝館蔵



6.棟方志功 《鐘溪之神》  
1945-50(昭和20-25)年頃  
河井寛次郎記念館蔵



7.棟方志功《鬼門譜板畫譜》より「真黒童女」  
1937(昭和12)年 日本民藝館蔵



8.棟方志功《華嚴譜》より「十八 風神」  
1936(昭和11)年 日本民藝館蔵

河井寛次郎と棟方志功 日本民藝館所蔵品を中心に  
広報用画像データ・プレゼント用招待券申込書

■ 写真ご使用に際してのお願い

- \* 作品写真の使用は、本展のご紹介をいただける場合のみとさせていただきます。
- \* 写真のご利用は、1 申込について 1 回とし、使用後のデータは破棄してください。
- \* 基本情報確認のため、広報担当まで一度校正紙をお送りください。
- \* 掲載後、広報担当まで見本誌をご送付くださいますようお願いいたします。
- \* お手数ですが、招待券プレゼントの受付、発送などは、貴編集部にてお願いいたします。  
原則として、掲載紙をご送付いただきました時に招待券をお送りいたします。

千葉市美術館  
広報担当 行  
FAX: 043-221-2316

貴社名：	媒体名：
ご担当者名：	発行予定日：
TEL：	発行部数：
FAX：	定価：
Email：	掲載予定コーナー名等：
画像到着希望日： 月 日 時まで	画像の掲載サイズ <small>(おおよそで結構です 例：5cm 四方、など)</small> ：

■ 画像データ申込 (ご希望のデータの番号に○をつけてください。)

- 1.河井寛次郎《白釉菱型面取扁壺》1942(昭和17)年 河井寛次郎記念館蔵
- 2.河井寛次郎《辰砂丸紋角瓶》1940(昭和15)年 日本民藝館蔵
- 3.河井寛次郎《三色打薬扁壺》1963(昭和38)年 河井寛次郎記念館蔵
- 4.河井寛次郎《海鼠釉扁壺》1937(昭和12)年 日本民藝館蔵
- 5.棟方志功《大和し美し 下巻》より「倭建命(やまとたけるのみこと)」 1936(昭和11)年 日本民藝館蔵
- 6.棟方志功 《鐘溪之神》1945-50 (昭和20-25)年頃 河井寛次郎記念館蔵
- 7.棟方志功《鬼門譜板畫譜》より「眞黒童女」 1937(昭和12)年 日本民藝館蔵
- 8.棟方志功《華嚴譜》より「十八 風神」 1936(昭和11)年 日本民藝館蔵

■ プレゼント用招待券申込  
(ご希望の場合はチェックをつけてください)

5 組 10 名様分 希望します。

(それ以外の枚数が必要な場合は別途ご相談下さい。)

チケット送付先  
ご住所：〒

問い合わせ先  
千葉市美術館 〒260-8733 千葉市中央区中央3-10-8  
Tel. 043-221-2311(代表) / 043-221-2313 (直通)  
Fax. 043-221-2316  
HP. <http://www.ccma-net.jp/>

広報担当：磯野 愛